

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
平成30年度第3四半期（平成30年10月～12月）

1. 治安情勢

- 10月7日、ムンバイ警察は、23歳のナイジェリア人を違法薬物であるメフェドリン所持の現行犯で逮捕した。男は大規模な麻薬カルテルとのつながりが疑われているが、調べに対し、「一切何も話せない。話せば自分は組織から消される。」と話すのみで、麻薬組織や薬物の売却先の顧客について一切の情報提供を拒んでいる。男はナイジェリアで経済学の学位を得たが、経済的に困窮したことからムンバイに来たと話している。
- 11月7日、ムンバイ市郊外においてクローンキャッシュカードを60枚以上所持したルーマニア国籍の男が逮捕された。ムンバイ警察は、ATM周辺でマスクをしてうろついている不審な男がいるとの通報を受け男を確保した。カードにはUP州の顧客の情報が入力されており、各カードには暗証番号が記載されていた。警察によれば、男はUP州のATMでスキミングによりカード情報を入手し、ムンバイで警備の手薄なATMを狙って金を引き出していた。
- アーメダバードにおいて、男性2人が牛の自警団に襲われ重傷を負う事件が発生した。2人は、8頭の水牛をトラックで搬送中、6人の牛の自警団に停車を求められた。口論の後に1人がナイフで刺され、1人は現場から逃走した。男性は病院に搬送され輸血を受け、何とか一命はとりとめた。
- 12月20日、ゴア州南部で48歳のイギリス人女性が30歳のインド人に性的暴行を受けて殺害された。女性は、早朝4時30分頃にカナコナ鉄道駅から滞在先のホテルに戻る途中、容疑者は女性を側道の茂みに押し倒して性的暴行を加え殺害した。その後、容疑者は被害者の貴重品を奪って現場から逃走したが、警察の捜査により逮捕された。
- 12月31日、マディアプラディッシュ州カジュラオを観光していた中国人女性が性的暴行の被害を訴えた。女性はカジュラオ博物館に向かって一方通行路を歩き喫茶店の前にさしかかった際、同店の店先にいた複数の男らに呼び止められ、中でコーヒーを飲むよう勧められた。女性は提供されたコーヒーを飲み、一旦はそこを立ち去って博物館に向かった。しかし、博物館の中で強力な目眩を覚え、博物館からの帰路、再び喫茶店の男たちと出会ったのを最後に、それ以後の記憶がなくなっていた。
- チャットィースガル州のマオイスト情勢について、11月11日、マオイストがカンケール地区に仕掛けた爆弾により治安部隊員1名が死亡、11月12日、州都ライプールから200キロ離れたカッタカル村とゴメ村の間の地域で治安部隊が選挙対策に従事中爆弾が爆発、11月12日、マオイストがスークマ県ティムマプラム村に仕掛けた爆弾で村人1名が死亡、11月26日、スークマ県で治安部隊とマオイストの交戦があり、マオイスト8名と治安部隊1名が死亡、ライプールから500キロ離れたテランガナ州との境のキスタラム地区の森林地帯でも銃撃戦が発生した。

2. 邦人に係る一般犯罪情勢

殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

ア 殺人

邦人被害の事件は認知していない。

イ 強盗

邦人被害の事件は認知していない。

ウ 強姦

邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

5. 対日感情

良好である。

6 犯罪発生状況

インド国内各地において、ナイジェリア人の薬物の密売組織が暗躍している状況が見られ、当館管轄地域においても特にゴア州やムンバイにおいてナイジェリア人の薬物関連逮捕事案が多く発生している。様々な場面で薬物へのアクセスが可能と見られるが、違法薬物所持で逮捕されると10年以上の20年以下の懲役刑を科される可能性があることから、安易に違法薬物に手を出すことは厳に慎むべきである。

その他の犯罪について、直近で邦人に対する被害はなかったが、昨年1月に、ゴア州を旅行中であった29歳の男性が、ビーチ付近でインド人らしき男に声を掛けられ親しくなり、一緒にカフェに行ったところ、そこで提供されたコーヒーを飲んで昏睡し、気がついた時には一緒に入店した男とともに旅券等の貴重品が入った小袋が無くなっていったという被害が発生した。同種の事件は過去にも多数発生している。特に、観光名所ではガイドを名乗る者が外国人に親しげに近づいてきて睡眠薬強盗を働いたり、女性に対して性的暴行を働くケースも散見されることから、見ず知らずの者の誘いには絶対に乗らないことが肝要である。